

## 第 36 回運営小委員会 議事録(案)

1. 開催日時：平成 30 年 3 月 20 日（火）10:00～12:30
2. 開催場所：東京電力ホールディングス株式会社 電気の史料館  
会議厚生棟 3 階 共用会議室 2
3. 出席者：渡邊・阿部（東北大学）、室屋（大阪大学）、高木・山本（東芝エネルギーシステムズ）、久宗・中野（日本原電）、赤峰（関西電力）、林田（東京電力 HD）、稲垣（中部電力）、会沢・長瀬（日立 GE）、河村・藤原（電中研）、大橋（オルガノ）、内田・埴  
(JAEA) 【敬称略、順不同】

### 4. 議事

#### (1) 前回議事録の確認

前回運営小委員会議事録について、了承された。

#### (2) 第 33 回定例研究会について

次回幹事である河村委員（電中研）より、資料に基づき第 33 回定例研究会の案について説明がなされた。

開催日時は平成 30 年 6 月 19 日（火）13:30～17:00、場所は電中研 横須賀地区とし、定例研究会の前、午前に第 37 回運営小委員会を開催することとなった。定例研究会のテーマについては流れ加速型腐食（FAC）とし、最近の研究動向に関する講演を予定する。講演の後には、電中研横須賀地区にある関連研究施設群の見学を予定する。

#### (3) 3 部会合同夏期セミナーについて

山本委員（企画担当）より、資料に基づき 3 部会合同夏期セミナーのプログラムやスケジュール等の説明がなされた。

スケジュールに関し、初日の基調講演は一件あたり 40～50 分程度の時間を確保することが望ましいこと、最終日のショートトピックスは学生や若手の興味を引けるような今後の展望に関する内容が望ましいこと、浜岡原子力発電所「失敗に学ぶ回廊」に関連するテーマ選定を行うこと、がコメントされた。

トピックスと講演者の候補案を作成しメール審議を行うこと、他部会との調整を早急に行うこと、5 月には Web サイトで募集を行うこと、が併せてコメントされた。

#### (4) 平成 29 年度 水化学部会会計報告について

藤原委員（財務担当）より、資料に基づき平成 29 年度会計及び平成 30 年度予算について説明があり、承認された。

次年度繰越予算について、額が大きいものの学会事務局から特段のコメントはない。しかしながら、繰越予算に対する中長期的な予算使途の見通しを立てておいた方がよい旨、コメントがなされた。

(5) 平成 29 年度 水化学部会全体会議資料について

埴委員（庶務担当）より、全体会議資料について説明があり、承認された。

(6) 部会賞の制定について

久宗副部長より、資料に基づき水化学部会 部会賞の案について説明がなされた。

方針として、

- ・受賞条件は、40 歳以下の部会員とする。
- ・賞は「奨励賞」と「講演賞」の二つとし前者は過去 3 年間の論文を対象、後者は当該年度における口頭発表を対象とする。「論文賞」の名称は学会の表彰と重複するため避けることとする。
- ・他薦のほか、論文の見落としを防ぐために自薦も可とする。

なお、選考体制については、次回運営小委での承認事項とし、6 月に選考小委員会を発足させたい。

(7) 原子力学会誌 連載講座について

久宗副部長より、資料に基づき原子力学会誌の連載講座の副タイトル、執筆分担や執筆スケジュールの案について説明がなされた。

全体構成等について、継続して審議することとなった。

(8) 2018 年 秋の大会 企画セッションについて

山本委員（企画担当）より、資料に基づき今後の企画セッションへの対応案が説明された。

企画セッションの内容は、水化学ロードマップの改定に係る紹介・報告となるが、2018 年秋の大会での提案は見送り、2019 年春の年會に提案することで引き続き検討を進めることとなった。

(9) 水化学ハンドブックの改定について

久宗副部長より、資料に基づき水化学ハンドブックの改定に係る方針、執筆分担や執筆スケジュール等について報告がなされた。

I.基礎編は 2018 年度上期を目処に改訂を、II.応用編は 2019 年度上期を目処に改訂を進め、2020 年度上期末を目処にレビューを含めた執筆作業を完了させる。

(10) 部会ホームページの更新について

稲垣委員（広報・編集担当）より、資料に基づき、部会ホームページが更新されたこと、ホームページの改訂については昨年 12 月のメール審議を経て外

部発注を進め、無事検収できたことが報告された。また、改訂後のホームページを活用した部会内の情報共有や意見交換に向けた案が紹介された。

(11) 水化学ロードマップのフォローアップ状況について

河村委員（水化学ロードマップフォローアップWG担当）より、資料に基づき、水化学ロードマップフォローアップ検討として年度内に6回のWGが開催されたこと、及び目次案と執筆分担及び今後のスケジュールについて報告がなされた。

(12) AWC2017 関連報告について

阿部委員（企画担当）より、AWC2017@瀋陽の概要について報告がなされた。

次回の2019年は韓国開催となるが、現在のところ韓国側の動きが見えないこと、次々回の2021年は日本開催となるため来年の4月には準備会の立ち上げが必要となることが議論された。

(13) 2017年度部会報の発行について

長瀬委員（広報・編集担当）より、資料に基づき水化学部会報の第9号が2月2日に発行されたことが報告された。

(14) シベリアアクシデント時の核分裂生成物挙動研究専門委員会について

内田顧問より、資料に基づき、同委員会の活動状況として前回報告以降2回の委員会を開催していること、WGについては全体で8回開催していること、2018年春の年会で企画セッションを行うことが報告された。

(15) HWC 技術報告書の作成状況について

山本委員（企画担当）より、資料に基づき、HWC技術報告書の作成に向けて昨年11月2日に技術検討会を開催したこと、技術検討会の後に検討会メンバーによる報告書案へのレビューを行い、現在はコメント対応を進めていることが報告された。

(16) その他

次回運営小委員会は、平成30年6月19日（火）の午前、電中研横須賀地区にて開催する。

以 上